

千葉都市モノレール株式会社

第42期（令和元年度）事業の概要について

令和2年6月26日

千葉都市モノレール株式会社

○事業の概要

当期は、中期経営計画（2017-2019）の最終年次となることから、計画の基本戦略である「安全・安心の徹底」、「サービスの向上・情報発信の強化」、「持続的経営の推進」の3項目を着実に推進するため、『平成31年度経営戦略』としても掲げ、全社員が目的意識を持ち、具体的成果実現のためにそれぞれの職務に取り組んできました。

その結果、当期の営業成績は、輸送人員で8期連続の増加、運輸収入においても前期を超える過去最高となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、不要不急の外出の自粛やテレワークの推奨、学校の休校等の社会活動の大きな変容により、当期末3月の営業実績は大幅に減少しました。

一方、事業の基盤である安全面では、車両基地内桁・支柱の耐震補強工事を完了させるとともに、千葉駅の走行線路転落防止対策としてホーム転落防止柵を設置したほか、軌道作業車の更新も完了しました。また、前期に着手した殿台変電所更新工事や運行管理システム更新工事についても着実に作業を進めるとともに、耐用年数が経過した車両（2編成）についても、安全性や眺望性を向上させた車両に更新するなど設備の経年劣化対策にも取り組みました。

（1）営業実績

当期の輸送人員は1,941万人となり、前期と比べ22万1千人増加しました。内訳としては、定期外輸送人員で9万1千人減少、定期輸送人員で31万2千人増加しました。

定期外輸送人員及び定期輸送人員の増減要因については、次のように分析しています。

【増加要因】

①千葉駅のJR連絡通路開通による効果

平成28年に連絡通路が開通して以降、千葉駅の乗換利便性が格段に向上したことにより、千葉駅から比較的距離の近い、千葉みなと駅、市役所前駅、天台駅、穴川駅などと千葉駅との相互間での利用が引き続き増加しており、令和元年度においてもその傾向が継続している。

②1km条例圏内の宅地化による人口増加（若葉区）

【減少要因】

① 新型コロナウイルス感染症対策として、不要不急の外出を自粛する動き、テレワークの推奨並びに学校の休校等により、3月の輸送実績が大幅に減少したことが大きく影響している。

※3月の輸送人員実績参照

(参考)

輸送人員・運輸収入

区 分	当 期 (令和元年度)	前 期 (平成30年度)	増 減	対前期比
輸送人員	(千人)	(千人)	(千人)	(%)
定期外	8,824	8,915	△91	98.97
定 期	10,585	10,273	312	103.04
合 計	19,410	19,189	221	101.15
運輸収入	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(%)
定期外	1,973	1,996	△23	98.84
定 期	1,405	1,364	40	103.01
合 計	3,379	3,360	18	100.54

(単位未満の端数切捨)

※3月の輸送人員実績

	区 分	当 期 (令和元年度)	前 期 (平成30年度)	増 減	対前期比
輸送人員		(千人)	(千人)	(千人)	(%)
2月までの累計	定期外	8,300	8,126	173	102.14%
	定 期	9,879	9,460	419	104.43%
	合 計	18,180	17,586	593	103.37%
3月実績	定期外	523	789	△265	66.38%
	定 期	706	813	△106	86.90%
	合 計	1,230	1,602	△371	76.79%
年度累計	定期外	8,824	8,915	△91	98.98%
	定 期	10,585	10,273	312	103.05%
	合 計	19,410	19,189	221	101.15%

(単位未満の端数切捨)

(2) 主な取り組み

① 安全・安心の徹底

- ・保安監査の受検
- ・千葉駅ホームに転落防止柵設置
- ・新造車両への更新(2編成)
- ・軌道作業車の更新
- ・消防・警察との連携合同避難訓練

② サービスの向上・情報発信の強化

- ・ 駅務機器の改修・更新
- ・ ポケトーク（瞬時翻訳機）の配備
- ・ 沿線ガイドマップの多言語版発行
- ・ 国際モノレール協会会議への協力

③ 持続的経営の推進

- ・ 地域限定旅行業の拡充（車両基地見学を夏休み自由研究ver. 等新たな企画展開）
- ・ 鉄道むすめ『葭川となみ』を活用した事業展開
- ・ 広告収入の営業強化
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策

以上

<お問い合わせ先>

千葉都市モノレール株式会社 総務部経営企画課

電話 043-287-8216